

《事業の概要》

1. 理事長指針・学校長方針

理事長指針

1. グローバル人材の育成
国内外を問わず、人的交流を促進充実する。
2. 不易流行（伝統とは革新の積み重ねである）
建学の精神、原理原則、基本を忘れることなく
意識改革、行動改革、システム改革を成し遂げる。
3. 「J-Vision 2022」の実践

大阪工業大学 学長方針

先進国主導の多極化した世界が、極の力の凋落と新興国の成長により無極化に進もうとしている。これにデジタル情報革命の影響が加わり、急速な構造変化が少子高齢化の進む日本にも及んでいる。その結果、構造変化の大波は大学にも押し寄せ文部科学省から「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」が示され、それに基づいた大学改革の実施が求められている。18歳人口が2018年から再び減少期に突入することから、今こそ大胆な計画をもとに改革を迅速に進めなければならない。特に文部科学省から指導されている改革の方向は、迅速な改革を進めるための大学機能の再構築と、それを可能にする大学ガバナンスの充実・強化である。

これまで本学では多様化する学生に対応した教育改善を実施してきた。今後もこれを継続すると同時に、激しく変化する社会において求められる人材を輩出できる大学の教育体制を確立する必要がある。その上で卒業生が社会から厳しく評価される将来を見据えて、教育の質保証をこれまで以上に進めるべく全教職員が一致協力して努力しなければならない。これらの大学改革は単年度で実施できるものではない。学園創立100周年となる2022年を見据えた今後10年間の改革活動を「J-Vision OIT改革 2022」と称し実行していく。

改革を推進しPDCAマネジメントを実践するために、大学運営においては、学長室に改革推進グループを置き、学長の責任のもと学部長会議と連携して迅速に改革を進める。それぞれに関連する課題は総合的に改善策を練り、目標設定をもとにPDCAサイクルの実行を進め、改革推進を活性化する。

各学部運営においては、学部長のリーダーシップのもと各学部教育の質的転換をめざしてPDCAサイクルの実行を進め、諸問題に教職協働で取り組む。特に教育の質保証の観点から基礎教育から専門教育への接続をスムーズに進めることを喫緊の課題とし、カリキュラム改善を早期に進める必要がある。

いずれの改革においてもこれまでの固定観念にとらわれず、日々変化する内部および外部環境に関心を持ち、強い改革意識を持って取り組んでいくこととする。

- I. 「J-Vision OIT改革 2022」の推進
- II. 建学の精神に基づく人材育成と実践的教育
- III. 大学広報のイメージ戦略 — New OIT Image Strategy
- IV. 地域再生の核となる大学
- V. 新展開をめざした戦略

摂南大学 学長方針

I 基本方針

我が国は、急激な少子高齢化の進行、地域コミュニティの衰退、新興国の台頭による競争激化など、社会の急激な変化に直面しており、持続的に発展し活力ある社会を目指した変革を成し遂げるため、社会の変革を担う人材の育成やイノベーションの創出が喫緊の課題となっている。

このような状況のなか、本学では、総合大学として多岐の分野にわたる学部や部署が緊密に連携し合い、大学全体として広く深い「知のネットワーク」を構築するとともに、視野が広く高度で柔軟性のある知的な総合性ならびに豊かな人間性を兼ね備えた人材育成を目指すとともに、かつ、その方向性を表すキーワードとして“Smart and Human”を掲げ、これを教職員で共有し教育・研究を展開しており、この“Smart and Human”を広く社会に情報発信し、本学の取り組みの浸透を図っている。

以上を踏まえ、2013年度は「グローバル人材の育成強化」「連携力の強化」「ブランド構築とUSRの推進」を最重要課題とし、加えて、本学が創立40周年を迎える2015年度を目途に大学の基盤整備を完了させるため、継続的に大学改革を推進する。

II 課題

＜最重要課題＞

- (1) グローバル人材の育成強化
- (2) 連携力の強化
- (3) ブランド構築とUSRの推進

- 1 教育体制の整備
- 2 就職支援の強化
- 3 教職員の資質向上
- 4 学生募集・広報の強化
- 5 改組

広島国際大学 学長方針

基本方針

本学は2013年に開学15周年を迎え、医療系総合大学として新たな一歩を踏み出すこととした。

大学のステートメントを「いのちのそばに。ひととともに。」と定め、学園の長期・第Ⅱ期中期目標・計画の初年度である2013年度より、医療系総合大学として、大学改革を推し進める。教育支援・学生生活支援・キャリア開発支援等あらゆる分野において意識、行動、システム改革を行う。

また、「四位一体」の経営理念の下で、学生・卒業生・保護者・教職員の連携の強化を図る。特に学生に対しては大学の様々な行事等に参加・参画する機会を通して、社会人基礎力の向上や大学に対する帰属意識、愛校心のかん養を図る。

大学改革および学生・卒業生・保護者・教職員の連携の強化を通じて、広島国際大学が医療系総合大学であることを学内外に定着させ、リーディングポジションの獲得を目指す。

これらの改革をより有効なものとするために、各項目について滞りなく自己点検・評価を実施するなど、適切なマネジメントシステムを構築する。

- I. 学生募集
- II. 教育・研究
- III. 学生支援
- IV. 進路・就職支援
- V. 人材育成
- VI. 財務
- VII. 連携推進
- VIII. ブランディング
- IX. 社会貢献
- X. グローバル化
- XI. 大学改革の推進のためのマネジメントシステムの構築

常翔学園中学校・高等学校 校長方針

教育理念、2022年長期目標(国公立大学への進学者数100人、学園内3大学への進学率35%)達成に向けた第Ⅱ期中期目標・計画を確実に実践し、常翔学園中学校・高等学校入学者の学力伸長と人間力向上を図る。中学校は完成年度を迎えるが、高校も含めた全教職員が積極的に協力し、保護者、地域、外部の教育関係者から信頼を得るための取り組みを実践する。学園3大学進学希望者はもちろんのこと、生徒の進学に対する目的意識と学力の向上に努めるとともに、進学後リーダーシップが発揮できる人材育成を目指す。

- 2013年度国公立大学進学者数 25人(既卒生を含む)
- 2013年度学園内3大学進学率30.0%(対卒業生数比)
- 2014年度大学入試 難関大学合格者数(いずれも既卒生を含む延べ人数)
国公立大学 50人、関関同立大学 150人
- 2014年度入試入学目標数
高校:470人(内部進学を除く、募集人数430人)
中学校:105人(募集人数100人)

[学校運営・人材育成]	経営感覚を有した人材育成と学校運営改善のための積極的行動の奨励、他
[授業力]	授業の工夫・改善、入試問題解答力強化、授業アンケートのポイントの向上、研究授業、教員研修などを通じた授業力の向上、他
[教育内容]	内部進学者の学力向上と内定後の学習指導の強化、他
[生徒指導]	ルールやマナーにこだわりを持たせる指導と教員自らの率先垂範した行動、他
[生徒募集]	募集広報に有効な情報(成績伸長、活躍、教科の取り組み・成果など)の共有化とホームページの刷新、他

常翔啓光学園中学校・高等学校 校長方針

本校では、不況など世界的な混迷の中にあっても、生徒たちが力強く困難に立ち向かい、堅固な目標を抱いて頑張れるような指導と育成を心掛けています。社会で活躍する自身の将来像を早く見い出して、それを念頭に置くことで目的意識をしっかり認識して勉学に励ませる仕組みの教育をしています。そのために、各人の進路・目標に向かって自信をもって励んでいくという取り組みを教育の中で実践するようにいたします。これらの点を踏まえて、今年の方針を以下に示します。

[教育システムのさらなる充実]

高校で大幅に改正された新カリキュラムに対応できるように、教育内容の整備と充実を図ります。さらに、自己評価と相互点検を充実させて教員の教科指導力のさらなる向上に取り組みます。

目的意識を持たせる上で有益となる研究室訪問・見学などを推進するため、学園内3大学との連携をより一層拡充いたします。

[年間行事の見直し]

教育内容の充実と学校運営の効率化を目指し、無駄を取り教育効率を高めるために、すべての行事とその内容について見直して改善を加えます。

本校の特徴でもある中学生の上・下級生間の「縦割り」連携体制の良さも体験型行事を通してさらに伸ばし、リーダーシップの育成に努めます。

[人間教育のさらなる充実]

人間力の育成を基本に、生徒数が増加しても、進路実績が上がっても、行儀、しつけ、マナー等についてはさらなる向上を目指します。勉学の習慣付けとあいさつの励行を含めた総合的人間教育を行い、大学でも社会に出てからも「常翔啓光学園卒は違う」と評価されるような人材育成に、継続して教職員が一丸となって取り組みます。

2. 事業計画 実績報告

(1) 事業計画

2013年3月25日(月)理事会承認

1) 法人本部

No.1▶大阪市北区茶屋町・梅田キャンパス開発および新校舎新築〔経営企画室、財務部〕

No.2▶退職金制度改革〔総務部人事課〕

2) 大阪工業大学

No.1▶海外研修派遣プログラム事業〔学長室企画課、会計課〕

No.2▶教育研究用コンピューターシステム整備事業〔情報センター事務室〕

3) 摂南大学

No.1▶大学院研究科・専攻の設置事業〔学長室企画課〕

4) 広島国際大学

No.1▶広島国際大学2014年度改組事業〔学長室企画課〕

5) 常翔学園中学校・高等学校

No.1▶グローバル化・英語力向上推進事業〔教務部、進路指導部〕

(2) 目的、計画、事業実績

2014年5月27日(火)理事会報告

1) 法人本部：2件

事業計画の目的、計画など	事業実績
No.1 《 経営企画室、財務部 》 大阪市北区茶屋町・梅田キャンパス開発 および新校舎新築 【実施計画】 ⇒本事業は2012年度より開始(2年目) 2012年1月に取得した、大阪市北区茶屋町の土地利用 について、『梅田キャンパス』(仮称。以下省略)として開発 を進めるとともに、新キャンパスでの学部等設置(改組、移 転等)を含む教育・研究事業、地域連携・貢献事業、その 他新規事業を想定した新校舎を新築する。 【必要性・目的】 本事業は、学園の重点的推進事業として、以下の趣旨 により展開する。 ①常翔学園100周年事業の一環とする。 ②学生と教職員が力を合わせて行う「全学的な協働 事業」として取り組む。 ③梅田キャンパス開発による新校舎は、常翔学園のさ らなる飛躍・発展のための象徴と位置づけ、「学園 のシンボリック拠点」とする。 ⇒①～③を踏まえ、教育・研究施設を中心に、市民 開放型“賑わい広場”としての機能をもつ地域連 携・貢献を意識した展開と、その他文化・商業的	1. 自己評価 2013年度に実施すべき事業計画は、概ね計画どおりに行うことが でき、評価できる。 設計案が概ね確定したことを踏まえ、工事発注を機に、新キャン パス概要等について、マスコミ等へのプレス・リリースを行った。これ により、新キャンパスを拠点とした学園の新たな展開について、社会 にメッセージとして発信できたとともに、学内においても、改めて今後 の推進事業としての士気を高めていく契機となった。 今後は、官公庁からの条件等とのすり合わせ並びに申請・認可を 受ける必要があり、これらが順調に運ばば、計画どおり3年後には本 事業が完遂する予定である。 2. 実施した施策 2013年度の実績は下記のとおり。 ①2013年1月～7月： 基本構想・計画の検討、策定 →各構想・計画別に関係者・部署等との調整会議を適宜実施(～ 7月) ②2013年7月20日： 業者指名委員会を開催し承認後、施工見積り業者を決定し、施 工見積を徴収 →2014年1月以降、基本構想・計画に基づき設計作業中

事業計画の目的、計画など	事業実績
スペースなど、“産・官・学・民”が集う都市空間としての活用を目指したキャンパスとする。 2022年の学園創立100周年に向けさらなる進化・発展を続けるために、“梅田”発「教育・研究・社会貢献」のための活動拠点として、学園が丸丸となって整備・開発を推進する。 【具体的指標・効果】 <2013年度> 1) 2012年12月19日開催の理事会・評議員会において報告を行った計画概要に基づき、マスタープランの内容について具体化する。 2) 学園並びに各設置学校からの用途計画との調整を図り、「学園のシンボリック拠点」のための計画案を策定する。 3) 2016年度内の利用開始に向け、新校舎建設を着工する。 【完遂時期】 新校舎の竣工:2016年7月(予定) 利 用 開 始:2016年度内(予定)	③2013年9月20日: 理事会で施工業者を決定。工事契約の締結 ④2013年9月27日: マスコミ等へのプレス・リリース ⑤2013年10月25日: 住宅・建築物省CO₂先導事業提案申請 →2013年12月26日採択 ⑥2013年1月～現在: 1) 北梅田地区まちづくり協議会にオブザーバーとして6回出席し、これ以外に主要なイベントに地域住民と共に参観した。 2) 茶屋町振興町会会長、梅田東連合鶴野町振興町会会長、梅田東連合振興町会・芝田二丁目振興町会会長、大阪市北区梅田東地域社会福祉協議会会長、北区商店会総連合会副会長、大阪市北区曽根崎連合振興町会会長への挨拶。 →継続して意思疎通・情報交換を図っている。 3) セイレイ興産株式会社(ヤンマー株式会社土地の地主)との協力関係を構築し、本構想・計画との進捗調整など、種々の協議を行っている。 4) 関係官庁(都市技術センター、大阪市教育委員会、大阪市開発計画課、大阪市開発誘導課、大阪市建築企画課など)と建築にあたって詳細な協議を続けている。 5) 他大学の都市型キャンパスの展開事例として、関東(10大学)・関西(2大学)地区の大学キャンパス視察を行った。その他、導入設備に関するモデル見学や商業施設の視察なども行った。 ⑦2014年3月27日: 建物の位置確認を実施 ⑧2014年3月28日: 安全祈願祭の実施 ⑨2014年3月31日: 指定確認検査機関より建築確認申請確認済証の交付 3. その他 今後の計画 ①～2016年8月: 校舎の建設工事 →約30ヶ月工期で竣工予定。 ②2016年9月～10月: 什器備品の搬入 →教育実施に支障のないよう準備・調整のうえ供用に備える。
No.2 《 総務部人事課 》 退職金制度改革 【実施計画、必要性・目的】 【2012年度から引き続いての取組み】 昨年度理事会において採択された退職金制度改革にかかる理事会修正案に沿って、教職員組合に対して制度改革の了承を打診し続けているが、いまだ合意には至っていない。 また、事務職員の制度改革について、職員組合は、団交に先立ち、全職員に対して直接説明会を行うよう求めている。しかし、新制度の総括的実施の前提となる教職員組合との合意が得られていないため、説明を開始できずにいる。 一方で、年金資産の閉鎖について、信託契約先の銀行は当初、年金制度を廃止する際には信託財産は凍結し加入者が退職する際にこれを直接償還していくとの意向であったが、交渉の過程で、学園の管理に一括して移行す	1. 自己評価 退職金制度改革は、学園の長期的な財政確立と社会情勢に適応した適正な制度の確立を目標として、検討を重ねてきたものである。 しかし、理事会としての改正案を策定し組合に提示したのち、正式な団体交渉に至っておらず、また、その間、社会情勢の変化により現時点での改正案が果たして最善の策であるかという点で、ここきて再度検討の余地が生じている。 このため、財政確立に向けて人件費削減の方針を改善の根底に据えつつも、 (1) 組合からの「不利益変更」の主張に対抗するには厳しい環境にあるため、当面、支給水準を変えない中で制度の変更を目指す。 (2) 制度の移行にあたっては、社会経済情勢と学園財政への効果を見極めた上で制度について再度検討する。

事業計画の目的、計画など	事業実績
ることも可能との見解を示した。 このような状況の変化の中で、今年度は、第一義の目標として団体交渉において両組合と新制度(理事会修正案)に沿って協議を進め労働協約(確認書)の締結を目指す。しかし引き続き交渉の難航が予想されるため、並行して、教員の年金加入者および事務系職員をそれぞれ対象とした説明会を実施し、新制度の主旨について理解を求める。 一方で、銀行との契約改正に必要な年金加入者に対してひとりずつ個々の同意を得ていく。少なくとも加入者の三分の二以上の同意が必要となる。 当初より実施が遅れることとなったが、2014年度の制度改正を目指す。 【具体的指標・効果】 労使合意に至らなければ改革は実施できない。不利益変更の法的な許容範囲を見定めつつ、慎重に交渉を進めていく。	ことを念頭に、引き続き慎重に改革に臨んでいくこととする。 2. 実施した施策 今年度の教職員組合との事務折衝において、退職金制度改革について引き続き協議していくことの打診を行った結果、代議員会など組合内での取りまとめが進まず進捗は見られない。むしろ、執行部提案に対して一部代議員からは強行姿勢が示されており、交渉に臨めない状況にある。 また、一方で制度改革の必要性を検討する発端のひとつとなった信託基金の運用状況に関して、昨今の経済情勢の好転を反映して、運用益が生じるという大きな転換が見られた。 このため、制度改正に踏み切ることで基金の自家運用に移行することがはたして妥当かという課題が新たに発生した。 3. その他 今後の計画 上述の状況下にあつて、組合交渉と信託財産の取り扱い変更を拙速に進めるのではなく、しばらく社会経済情勢を見極める必要がある。 このため、組合に対しては引き続き制度改正の必要性を説明し理解を求めつつも、2014年度の改正を一旦見送ることとする。

2) 大阪工業大学：2件

事業計画の目的、計画など	事業実績
No.1 《学長室企画課、会計課》 海外研修派遣プログラム事業 【実施計画】 理事長指針ならびに学長方針に揚げられている「社会に貢献できるグローバル人材育成」に應えるため、学生の海外研修派遣プログラムを構築・実施し、英語による授業、現地での生活体験等を通じて、グローバル化対応への素養を身につけた人材を育成する。 派遣先は、本学との協定大学のほか、アジア、欧州、北米、オーストラリア等へ広く対象を広げる活動を行う。 大学院へ内部進学が決定した学部4年次生、大学院1年次生を対象に半年から1年間、海外の大学等に派遣する。 [工学部、情報科学部、大学院工学研究科、大学院情報科学研究科] 派遣先は、英語を主言語とする国地域の有力大学、学生の活動が英語によって可能な先進的研究拠点大学。学部4年次生、大学院1年次生の後期から半年間派遣。 [大学院知的財産研究科] 派遣先は、米国ワシントン州立大学、連携協定を結ぶ台湾5大学(国立虎尾科技大学、国立雲林科技大学、世新大学、国立高雄第一科技大学、国立台北科技大学)。大学院1年次生の後期から1年間派遣。 派遣学生に対して派遣の半年前から5ヶ月間、LLC(Language Learning Center)において英語力強化プログラムと1ヶ月間の海外でのマンツーマン授業を経験させ、語学力による理由で挫折することがないよう支援を行う(知的財産研究科の中国圏への派遣学生は除く)。	1. 自己評価 ①夏期海外派遣学生の英語力強化プログラム(LLC奨学金制度) 帰国後の成果報告会では英語で発表するなど英語力強化プログラムの一定の成果があった。 ②大学院進学予定者等留学支援制度(海外研究支援プログラム) 2013年度から開始した新規事業であるが概ね順調に実施でき、成果報告会などにより教育効果が高いことを確認できた。 ③工学部研究体験型海外交換研修(海外ラボ体験プログラム) 台北科技大学(台湾)からの受入学生をロボット工学科の研究室に配属させ、本学学生と共同で研究を実施し、研究型の留学を体験する機会を提供できた。受入学生からも好評を得た。 また、交換研修の派遣として、本学からもロボット工学科の学生を台北科技大学に派遣し、同様に研究体験型の研修を実施した結果、先方の大学より一定の評価を得た。 ④工学部海外PBL(国際PBLプログラム) 本学と台北科技大学の学生の混成チームをつくりプロトタイプングを実施した。海外の大学生と共に研究活動をする機会を提供し、参加した学生からも好評を得た。 ⑤情報科学部留学支援 現時点では、海外と技術的な教育・研究面で交流している教員は僅かであり、留学希望学生の派遣先の開拓が難しい状況にある。今後は、留学派遣の活性化に向けて、国際交流センターと連携しながら、教員のグローバル交流も推奨していく必要がある。連携協定校との教員も含めた交流の促進や新規連携校の開拓にも取り組む方針である。 ⑥大学院知的財産研究科海外派遣 台湾の協定校3大学(高雄第一科技大学、雲林科技大学、世新大

事業計画の目的、計画など	事業実績
【必要性・目的】 理事長指針ならびに学長方針に掲げられている「社会に貢献できるグローバル人材育成」に応えるため、学生の海外研修派遣制度を充実させる。 現在実施している海外語学研修は参加する学生が少ない。学生にとって魅力的かつ効果的な海外研修派遣プログラムを構築・実施し、社会が求めるグローバル人材の育成を推進する。 【具体的指標・効果】 ① 学生にとって魅力的かつ効果的な海外派遣プログラムを実施することで、参加学生が中心となって学生間の海外への意識向上や海外との研究交流の促進が期待できる。 ② 大学全体で取り組むことにより、社会が求めるグローバル人材育成活動が活性化できる。 【実施時期】 2013年4月～2017年3月 事業実施（受入大学の開拓、派遣学生に対する英語力強化、海外研修派遣プログラム）	学)における短期集中プログラムに大学院生を派遣し、他国の知的財産の法体制を学修するとともに英語力向上を図り、好評を得た。また学校対抗のプレゼン大会で準優勝となった。 2. 実施した施策 ① 夏期海外派遣学生の英語力強化プログラム(LLC奨学金制度) 語学研修などの英語圏への派遣プログラムへの参加を希望する学生を対象に、LLCを活用して英会話力を高めるための強化プログラムを派遣前までの約半年間実施し、派遣前の事前学習の場を提供した。21人の参加者の中から優秀者を選考し、7人に15万円の奨学金を支給した。 ② 大学院進学予定者等留学支援制度(海外研究支援プログラム) 大学院進学予定者等17人に対して、北米・ヨーロッパ・東アジア地区の大学及び研究所への留学支援を決定した。10月中旬から順次出発し、3月下旬までに全員帰国した。 ③ 工学部研究体験型海外交換研修(海外ラボ体験プログラム) ロボット工学科で台北科技大学(台湾)との学生交流を実施した。本学学生は、単なる語学研修の目的だけでなく、工学知識と社会人基礎力の育成を目指してPBL手法による学修を先方大学の学生と実施した。受入学生は、各研究室に1人を配属し、本学卒業研究着手者および大学院生が共同で卒業研究を行う環境を構築できた。 [派遣学生]2013年8月15日～8月29日 本学学生10人 [受入学生]2013年6月21日～8月11日 先方学生 9人 ④ 工学部海外PBL(国際PBLプログラム) 電気電子システム工学科と電子情報通信工学科の学生15人を対象に、海外協定校の台北科技大学(台湾)で1週間のPBL教育を実施した。 2013年8月6日～8月12日 対象学生15人 ⑤ 情報科学部留学支援 学部4年次生3人が香港城市大学への短期交換留学(2週間)に参加し、大学授業への出席、現地の学生や教授との対話や食事会、名所観光など有意義な留学生生活を体験した。 2013年8月30日～9月12日 対象学生3人 ⑥ 大学院知的財産研究科海外派遣 台湾の協定校3大学(高雄第一科技大学、雲林科技大学、世新大学)における短期集中プログラムに大学院生を派遣し、有意義な体験を積むことができた。 2014年3月5日～16日 対象学生6人 3. その他 今後の計画 ① 夏期海外派遣学生の英語力強化プログラム(LLC奨学金制度) 2014年度はLLC奨学金の1人当たり支給額を7万円とする代わりに対象者を15人に拡大し、より多くの学生が参加できるよう促す。 ② 大学院進学予定者等留学支援制度(海外研究支援プログラム) 派遣学生帰国後に行った成果報告会での内容を精査し、2014年度派遣学生数の増加を図る。2014年度は募集枠を30人に拡大する。 ③ 工学部研究体験型海外交換研修(海外ラボ体験プログラム) 2013年度実施した“語学留学に留まらない教育プログラム”をさらに充実させるとともに、留学先や参加学生数が増加する指導体制の充実を図る。具体的には、2013年度学生の派遣に引率した教員によるプログラムの見直しと参加者増加を図るためのガイダンスを充実させる。 ④ 工学部海外PBL(国際PBLプログラム) ③に同じ。2014年度は対象を工学部4学科と情報科学部4学科の計6プログラムに拡大し、一層の充実を図る。 ⑤ 情報科学部留学支援 留学を希望している現3年次生に適切な訪問先を開拓し、次回募

事業計画の目的、計画など	事業実績
	集の段階で留学派遣を実現する予定である。 また、前提となる大学院進学者の増加対策として、3年次生や2年次生の早い時期から大学院ガイダンスを開催し、次年度の推薦進学希望者増加に結びつけ、新4年次生の留学支援も強化する予定である。 ⑥大学院知的財産研究科海外派遣 派遣学生帰国後にいった学長への成果報告会での内容を精査し、2014年度の事業に生かす。
No.2 《 情報センター事務室 》 教育研究用コンピューターシステム整備事業 【実施計画】 大宮・枚方キャンパスに設置している教育研究用コンピューターシステムを更新する。更新対象機器等は次のとおりとする。なお、演習室の規模を含めて各機器の台数や管理システム全体の見直しを行う。 (大宮キャンパス) ラックマウントサーバー 11台、ブレードサーバー 15枚 情報演習室(8室)パソコン 524台、プリンター 13台、各室授業支援システム 自習室(2室)パソコン 85台、プリンター 3台 (枚方キャンパス) ラックマウントサーバー 6台、ブレードサーバー 8枚 情報処理演習室(6室)パソコン 666台、プリンター 6台、各室授業支援システム 自習室(3室)パソコン 139台、プリンター 3台 システム更新後の運用開始を2014年4月とするため、2013年度中に仕様等を決定し、リプレース作業を完了させる。ただし、運用期間および予算措置は前回の方法に倣い、2014年度から2017年度の4年間とする。 【必要性・目的】 情報センターでは、工大における情報処理教育および学術研究の活動を支援するため、大宮・枚方両キャンパスに教育研究用コンピューターシステムならびにネットワーク基盤を構築し、より質の高い教育と高度な研究活動を行うための情報環境を整備している。現在の教育研究用コンピューターシステムは、2010年4月から運用しており、当時としては最新のハードウェア、ソフトウェアの導入と併せてキャンパス間ネットワーク用として高速専用回線を敷設した。これらは情報関連科目の授業だけでなく、語学や専門科目、卒業研究、就職活動、学外との学術情報交換など幅広く活用されている。 2013年度末(2014年3月)をもって現行の教育研究用コンピューターシステムは、導入後4年が経過する。また、授業支援システムについては前回のリプレース対象とせず再利用したため導入後7年が経過することになる。この間の情報技術(IT)の進歩、新しい様々な仕組みやサービスの開発、サーバーやパソコン等の性能アップなどにより、システム全体の陳腐化は否めない。今後も継続してより質の高い教育と高度な研究活動を支援することや学生が常に最新の情報技術を活用できる環境を整備することは情報センターとしての大きな役割のひとつであるため、現行システム導入時の予定どおり2014年3月末を目途として全面的にシステムリプレースを行う。	1. 自己評価 今回の教育研究用コンピューターシステム整備においては、新しい技術を多数採用しており、教育や研究に対するサービス向上に十分に貢献できる内容となっている。また、対外的に広報できるものが多く、大学の知名度向上にも大いに役立つことが期待できる。 さらに、当初は困難と思われていた私立学校施設整備費補助金の獲得が実現できたこともあり、実施事業としては高く評価できる。 導入システムの中から特長的なものを以下に挙げる。 ①情報演習室のPCにディスプレイ一体型パソコンを導入した。 ②WindowsOSとしてWindows8.1、Linuxディストリビューションとしてubuntuを導入した。 ③ネットブート型シンクライアント方式を採用し、起動時にWindowsもしくはLinuxを選択できるようにした上で、大幅な起動時間短縮を実現した。 ④プリンターは複合機を導入し、通常印刷のほかUSBメモリからの直接印刷やスキャナ機能などを付加した。 ⑤ファイルサーバーとしてUSBメモリやオンラインストレージ(Google DriveやOneDrive)を利用する。 ⑥メールシステムは学内停電に影響しないクラウド型メールサービス(Office365)を利用する。 ⑦無線LAN環境を充実させ、学内なら場所を選ばず無線LANサービスが利用できるよう、各エリアのAPを増設。また、訪問先の大学等でもネットワークが使用できるようeduroamサービスを導入した。 ⑧学内専用のプライベートクラウドサービスの提供を開始した。 ⑨基幹サーバーに垂直統合型システム「Vblock」を導入した。国内大学として初導入となる。 2. 実施した施策 ①システム整備に先立ち、取引業者や製品紹介セミナー等から収集した情報を基に、システム構築に関連する情報提供依頼書(RFI)を作成して9社に配付し、情報提供を受けた。 ②情報センター内のシステム検討メンバー(教員2人、職員4人)により、受けた情報の取捨選択を行い、各学部の情報教育関係教員等に意見を聴取した上で、次期システムの基本仕様を検討・決定した。 ③決定した基本仕様に基づき、提案依頼書(RFP)を作成し、情報提供を受けた企業の中から全体提案のできそうな4社(株式会社インターネットイニシアティブ、富士通株式会社、株式会社ニッセイコム、リコージャパン株式会社)に対して提案依頼を行った。 ④その後、期限までに株式会社インターネットイニシアティブおよび富士通株式会社の2社から教育研究用システムの提案書が提出された。そのほかの2社については、自社の都合により提案辞退の申し出があった。 ⑤提出のあった2社の提案内容について、前出のシステム検討メンバーにおいて精査し、検討した結果、株式会社インターネットイニシアティブの提案するシステムを採用することに決定し、学内手続

事業計画の目的、計画など	事業実績
【具体的指標・効果】 ①現行システムの問題点を改善することにより、教育サービスの充実を図る。 ②利用者アンケートを実施し、利用者の満足度を調査して投資効果を検証する。 ③サーバー仮想化やエネルギーの可視化システムを導入することにより、コスト削減を図る。 ④無線LANエリアの拡充により、モバイルデバイスによる教育研究活動を支援する。 【実施時期】 2014年3月 システムリプレース完了 2014年4月～2018年3月 システム運用管理	きを行った。 ⑥2013年10月の理事会にて決裁後、11月6日にキックオフミーティングを行い、システムリプレース作業を開始した。 ⑦作業全体を大きくネットワークチーム、サーバーチーム、認証システムチーム、演習室チームに分類し、それぞれで仕様決定、機器導入、設定作業、動作確認、ドキュメント化を行った。 ⑧2014年3月15日までにほぼ全ての作業を完了し、4月1日から新システムの運用を開始した。 ⑨その他、私立学校施設整備費補助金「ICT活用推進事業」への交付申請を行い、採択された。 3. その他 システムリプレースに伴い、同時に以下のことを実施し、教育研究システム全体のサービス向上を図った。 ①大宮・枚方両キャンパスから1G専用回線でSINETに接続することにより、国立情報学研究所といくつかの大学で推進されている学術認証フェデレーションに参加し、他大学との連携を強化する。 ②大宮・枚方キャンパス間の10G専用回線およびMicrosoft包括ライセンスサービスは従前どおり継続して契約した。 ③Adobe社とETLA契約を結び、学内では「Adobe Creative Cloud」の無制限利用を可能とした。 今回採用した新しい技術や取り組みについては、積極的に学外へ発信することを目的のひとつにしていたこともあり、導入業者からの取材申入れ等には随時対応することとしている。

3) 摂南大学：1件

事業計画の目的、計画など	事業実績
No.1 《学長室企画課》 大学院研究科・専攻の設置事業 【実施計画】 ①理工学研究科生命科学専攻(修士課程)、生産開発工学専攻(博士前期課程)の設置 ②経済経営学研究科経済学専攻(修士課程)、経営学専攻(修士課程)の設置 【必要性・目的】 2010年4月に開設した「理工学部生命科学科」および「経済学部経済学科」の年次進行に伴って大学院を設置することで、在学生の進学希望に応える。 「工学研究科」については、理工学部生命科学科を基礎とした「生命科学専攻(修士課程)」を新たに設置し、「機械・システム工学専攻(博士前期課程)」および「電気電子工学専攻(博士前期課程)」は発展的に統合のうえ「生産開発工学専攻(博士前期課程)」に改組する。また、「生命科学専攻(修士課程)」の設置に伴い、新たに理学分野についても教育研究を行うことから、研究科名称を「工学研究科」から「理工学研究科」へと変更する。 経済学部経済学科を基礎とした大学院については、本学の経済学・経営学分野のさらなる強化を図るため、既設の「経営情報学研究科経営情報学専攻(博士前期課程)」と統合させた「経済経営学研究科」を新たに設置し、「経済学専攻(修士課程)」および「経営学専攻(修士課程)」	1. 自己評価 2014年度開設の工学研究科生命科学専攻(修士課程)・生産開発工学専攻(博士前期課程)、経済経営学研究科経済学専攻(修士課程)・経営学専攻(修士課程)の設置については、申請期限内に全ての手続きを完了させることができた。 また、「工学研究科」から「理工学研究科」への名称変更については、1月に学則変更届の提出をもって手続きが完了した。 2. 実施した施策 工学研究科の改組について実施した施策は以下のとおりである。 4月24日 工学研究科生産開発工学専攻(博士前期課程)設置届出書提出 5月28日 工学研究科生命科学専攻(修士課程)設置認可申請書提出 7月1日 工学研究科機械・システム工学専攻、電気電子工学専攻(博士前期課程)学生募集停止報告書提出 8月27日 工学研究科生命科学専攻(修士課程)設置認可申請に係る補正申請書提出 10月31日 工学研究科生命科学専攻(修士課程)設置認可 1月16日 工学研究科の名称変更に係る学則変更届提出 経済経営学研究科の新設について実施した施策は以下のとおりである。 4月24日 経済経営学研究科設置届出書提出

事業計画の目的、計画など	事業実績
を置く。このことにより、本学が持つ経済学部、経営学部のシナジー効果を発揮し、総合大学としてのさらなる魅力化につなげる。 【具体的指標・効果】 【実施時期】2013年度(2014年度開設)	・ 7月 1日 経営情報学研究科経営情報学専攻(博士前期課程)学生募集停止報告書提出 3. その他 今後も文部科学省に申請した計画通り履行するよう、関係部署と調整しながら業務を遂行する。

4) 広島国際大学：1件

事業計画の目的、計画など	事業実績
No.1 《 学長室企画課 》 広島国際大学 2014年度改組事業 【実施計画】 ・医療栄養学部医療栄養学科の設置 ・管理栄養士養成にかかる指定 ・薬学部薬学科の収容定員減 【必要性・目的】 広島国際大学を取り巻く環境は年々厳しくなっている。人口減少、少子高齢化、健康・医療ブームによる保健医療系学部学科の増設のほか、本学が立地する中国・四国地方においては大都市圏への地元学生の流失も懸念されており、官民あげて「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県の実現」(ひろしま未来チャレンジビジョン)を推進中である。 このような中で、本学が安定的に学生を確保し、将来にわたって持続的発展を遂げるためには、18歳人口が再び漸減を始めるまでの間に、大学の教育基盤を整備し足腰を強くしておく必要がある。2014年度改組は、総合リハビリテーション学部設置を核とする2013年度改組に継ぐものであり、6年制に移行後苦戦が続く薬学部の挺入れを主眼としている。 具体的には、「食」による予防医療の推進および健康の維持・増進、病態の改善を行う医療系人材の養成を目的として、医療栄養学部医療栄養学科(4年制)(仮称)を設置する一方、既設の「薬学科」(6年制)の入学定員を40人減じ120人体制にすることで将来にわたって磐石な体制を築こうというものである。 【具体的指標・効果】 【改組時期】2014年4月1日	1. 自己評価 文部科学省や関係機関への手続きを滞りなく行い、実施計画どおりすべて受理され、認可された。また、2014年度開設に向けて必要な施設・設備の整備を進め、教育研究環境の充実を図るとともに学生募集に全力を投入したが、入学定員60名に対して入学者は58名となった。 2. 実施した施策 (1) 医療栄養学部医療栄養学科の設置 ・「広島国際大学 医療栄養学部設置認可申請書」を文部科学省に提出(2013年5月31日) ・「広島国際大学 医療栄養学部設置認可申請に係る補正申請書」を文部科学省に提出(2013年8月29日) ・「認可書」の受領(2013年10月31日) (2) 管理栄養士・栄養士養成にかかる指定 ・「広島国際大学 管理栄養士学校指定申請書」を中国四国厚生局および文部科学省に提出(2013年9月17日) ・「広島国際大学 栄養士学校指定申請書」を中国四国厚生局に提出(2013年9月17日) ・管理栄養士養成施設及び栄養士養成施設の指定申請に関する実地調査(2014年3月7日) ・「認可書」の受領(2014年3月26日) (3) 薬学部薬学科の収容定員減 ・「広島国際大学 医療栄養学部設置認可申請書」に、「薬学部薬学科の収容定員減」の内容を記載 3. その他 特になし。

5) 常翔学園中学校・高等学校：1件

事業計画の目的、計画など	事業実績
No.1 《 教務部、進路指導部 》 グローバル化・英語力向上推進事業 【実施計画】 1)イングリッシュキャンプの実施(中学校2年・全員):7月 2)イングランド海外語学研修の実施(高校1年・希望者):7月～8月 3)オーストラリア海外語学研修の実施(高校2年・希望者):8月 4)海外の学校との交流(中高):1月 5)GTECの受験推奨(中高):12月 6)英語検定準1級受験の推奨(英語力トップ層生徒):6月～2月 7)英語検定受験の推奨(中学生全員):6月～2月 【必要性・目的】 学園をあげて社会に貢献できるグローバル人材の育成が叫ばれているなか、中学生・高校生のグローバル化に向けて、外国人講師や同年代の外国人との交流の機会を設けるとともに、英語関係テストの受験を推奨し、英語力の向上を目指す。 1)イングリッシュキャンプ:中学校の13～14歳と言う頭の柔らかい時期に、外国人講師とキャンプ生活を通して寝食を共に過ごす中で、英語力を身に付ける体験企画を実施。いろいろなアクティビティを交えながら、英語を学ぶ環境をつくる。 2)イングランド海外語学研修:昨年度以前から実施していたオーストラリアへの海外語学研修に追加して、2013年度より高校1年生の希望者を対象に、生徒夏期休暇期間を利用してイングランドへ17日間の語学研修を実施する。渡航期間だけでなく、事前・事後研修を行うことにより、語学教育とともに異文化教育も充実させる。 3)オーストラリア海外語学研修:高校2年生の希望者を対象に、生徒夏期休暇期間を利用してオーストラリアへ15日間の語学研修を実施する。渡航期間だけでなく、事前・事後研修を行うことにより、語学教育とともに異文化教育も充実させる。 4)海外の学校との交流:海外語学研修で親密な学校間交流を行っているオーストラリアのカシミア・カトリック・カレッジ校の在学(希望者のみ)が来日した際には、本校中学生・高校生と交流できる様々なイベントを実施し、学校として同年代の外国人との交流機会を設ける。 5)GTECの受験推奨:「読む」「聞く」「書く」「話す」の4つの技能が測定できるGTECの受験を推奨し、英語力の向上を目指す。 6)英語検定準1級受験の推奨:英語力トップ層生徒に英語検定準1級受験を推奨する。英語能力の高い生徒が受験する際の受験料を補助することにより、生徒の経済的負担を軽減し準1級合格者輩出の促進を目指す。 7)英語検定受験の推奨:中学校では英語検定試験を全員受験させる。英検は6月・10月・2月に実施されるが、学習タイムを利用して試験前対策を行う。 【具体的指標・効果】 【成果検証】 ①キャンプ・研修・交流事業での生徒の満足度85%【1)～	1. 自己評価 1)イングリッシュキャンプ 貸切施設にて2日間ネイティブの講師と寝食を共にすることにより、英語力の向上につながった。1クラス10人前後と少人数制にし、できるだけ生徒がネイティブと話す機会を増やした。またレッスン以外でも食事中等に英語で講師と会話する姿があらこちらで見られた。わずか1泊2日ではあるが、こういったことは宿泊を伴わないと実現しないと感じている。 [生徒アンケート結果抜粋] 「参加して良かった」 →93人/106人=87.7% 「レッスンを受けて良かった」 →104人/106人=98.1% 「ネイティブ講師について良かった」 →105人/106人=99.1% ※「参加して良かった」率が他の設問より低いのは、宿舎施設の古さによるもの 2)英国インターナショナルプログラム-イングランド海外語学研修 現地のドミトリ(寮)に入り、英語を母国語としない様々な国の子供たちと一緒に英語を学ぶプログラムであった。そのことにより、生徒たちに、より国際的な感覚が身についたように感じる。また本校単独では難しかったこのプログラムを、常翔啓光学園高校と合同で企画することにより、両校あわせてある程度の人数が確保できたため、実現したことは評価できる。 [生徒アンケート結果抜粋] 「今回の研修は今後の人生に役立つものとなった」 →10人/11人=90.9% ※残りの1人は「どちらでもない」と回答 3)オーストラリア海外語学研修 費用としては決して安価だと言えないが、得られるものは大きいと、生徒には好評であった。カシミア・カトリック・カレッジ校の生徒やホームステイ先でネイティブと生で触れ合える機会は希少であり、研修を通じて生徒の自立心が養えたと感じる。生徒は帰国後もメール等にてホストファミリーと連絡を取り合う等、英語に対するハードルが低くなったことは収穫である。 [生徒アンケート結果抜粋] 「今回の研修は今後の人生に役立つものとなった」 →22人/25人=88.0% ※残りの3人は「どちらでもない」と回答 4)海外の学校との交流 オーストラリア海外語学研修時に交流のあるカシミア・カトリック・カレッジ校の生徒が1月下旬に来日し、本校生徒との交流を図った。2013年夏に本校がオーストラリアに行った際に知己を得た生徒が多く来日し、お互いフレンドリーな雰囲気であらゆる交流を図っており、意義深い施策となった。 ※このことに関しては、特に生徒アンケートは実施していない。 5)GTECの受験推奨 中学生は目標を大幅に上回ったが、高校2・3年生についてはわずかに届かなかった。どの学年もかなりの高GRADE獲得者が存在するが、生徒間の学力レベルの差は激しい。しかし年々底上げは図られてきている。

事業計画の目的、計画など	事業実績
4)】 ②GTECスコア 各GRADE得点者の輩出 中学生:GRADE2 30% 高校1年:GRADE3 25% 高校2・3年:GRADE3～4(高校3年のみ、特進系クラスを除く)30%【5】 ③英検準1級合格者の輩出 1名以上【6】 ④英検3級全員合格(中学2年生終了まで) 英検準2級全員合格(中学校卒業まで)【7】	[2013年度結果] 中学生:GRADE2以上 89人/193人=46.1% 高校1年:GRADE3以上 173人/588人=29.4% 高校2・3年:GRADE3以上 318人/1071人=29.7% 6)英語検定準1級受験の推奨 残念ながら未だ合格者を輩出していない。英語科教員の熱心な指導により、合格可能性のある受験者が昨年度比倍増したことは喜ばしいが、まだ生徒の英語力を伸ばし切れていないのは反省点である。 [2013年度結果] 受験者8名、うち合格者0名 7)英語検定受験の推奨(中学校) 長期欠席の生徒を除き、全員が受験した。通常2級は国公立・関関同立合格レベルと言われており、上位層の結果には満足している。しかし下位層の底上げも図れてはいるが、目標までには到達していない。 [2013年度結果] 3年生:2級-3名、準2級-28名、3級-47名、4級-18名、5級-2名 2年生:準2級-11名、3級-57名、4級-30名、5級-9名 1年生:準2級-1名、3級-10名、4級-66名、5級-28名 未取得-3名 2. 実施した施策 ・7月29日・30日に中学2年生全員を対象に、イングリッシュキャンプを実施した。 ・7月26日から8月9日にかけて、高校2年生の希望者を対象に、オーストラリア語学研修を実施した。 ・上記オーストラリア語学研修中に、地元のカシミア・カトリック・カレッジ校との交流を図った。 ・7月30日から8月15日にかけて、高校1年生の希望者を対象に、常翔啓光学園高校と合同で、英国インターナショナルプログラムを実施した。 ・GTECの受験を、中学生については12月5日・6日に、高校生については12月5日に実施した。 ・オーストラリアカシミア・カトリック・カレッジの生徒が1月19日～26日の日程で来日し、本校の生徒と交流した。 ・英語検定準1級を2013年度受験した生徒は8名。合格者0名。 ・中学生全員が2013年度2回実施された英語検定を受験した。 3. その他 今後の計画 ・2014年度高校文理進学コース2年生がアメリカ人スタッフとミュージカル等を共同制作(ヤングアメリカンズアウトリーチ)。 ・2015年度高校一貫コース生がオーストラリア・メルボルン方面へ修学旅行を予定(本校として初の海外修学旅行)。 ・2015年度高校一貫コース生以外の生徒が台湾へ修学旅行を予定。その結果を分析し、2016年度以降方面を再度検討する。

3. 組織の改編

(1) 法人合併

○ 学校法人常翔啓光学園との合併（2012年7月 合併認可申請）

学校法人常翔啓光学園との法人合併により常翔啓光学園高等学校、常翔啓光学園中学校を設置学校に追加

(2) 新設・改組等変更

◆ 摂南大学

○ 収容定員の変更（2012年6月 学則変更認可申請）

理工学部	生命科学科	入学定員	60人	3年次編入学定員	5人	収容定員	250人
		→入学定員	80人（+20）	3年次編入学定員	5人（0）	収容定員	330人（+80）
経済学部	経済学科	入学定員	200人	3年次編入学定員	4人	収容定員	808人
		→入学定員	220人（+20）	3年次編入学定員	4人（0）	収容定員	888人（+80）

◆ 広島国際大学大学院

○ 研究科の廃止（2013年3月 届出）

総合人間科学研究科

◆ 広島国際大学

○ 学生募集停止（2012年4月 報告）

保健医療学部	臨床工学科	（廃止）	入学定員	△100人	収容定員	△400人
保健医療学部	総合リハビリテーション学科	（廃止）	入学定員	△100人	収容定員	△400人
工学部	住環境デザイン学科	（廃止）	入学定員	△70人	収容定員	△280人
工学部	情報通信学科	（廃止）	入学定員	△70人	収容定員	△280人

※ 2013年4月からの学生募集を停止し、在学生の卒業等を待って廃止予定。

○ 学部等の設置（2012年4月 設置届出）

保健医療学部	医療技術学科	入学定員	130人	収容定員	520人
	臨床工学専攻		[50人]		
	臨床検査学専攻		[40人]		
	救急救命学専攻		[40人]		
総合リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	入学定員	130人	収容定員	520人
	理学療法学専攻		[60人]		
	作業療法学専攻		[40人]		
	言語聴覚療法学専攻		[30人]		
	リハビリテーション支援学科	入学定員	60人	収容定員	240人
	義肢装具学専攻		[30人]		
	リハビリテーション工学専攻		[30人]		

○ 収容定員の変更（2012年4月 届出）

保健医療学部	診療放射線学科	入学定員	90人	収容定員	360人		
		→入学定員	70人 (△20)	収容定員	280人 (△80)		
医療福祉学部	医療福祉学科	入学定員	100人	3年次編入学定員	10人	収容定員	420人
		→入学定員	120人 (+20)	3年次編入学定員	10人 (0)	収容定員	500人 (+80)
医療経営学部	医療経営学科	入学定員	120人	収容定員	480人		
		→入学定員	140人 (+20)	収容定員	560人 (+80)		

(3) 申請・届出等（2014年度開設・改組等）

◆ 大阪工業大学大学院

○ 学生募集停止（2013年3月 報告）

工学研究科	経営工学専攻	博士前期課程	（廃止）	入学定員	△15人	収容定員	△30人
工学研究科	経営工学専攻	博士後期課程	（廃止）	入学定員	△3人	収容定員	△9人

※2014年4月からの学生募集を停止し、在学生の修了等を待って廃止予定。

○ 収容定員の変更（2013年4月 届出）

工学研究科	機械工学専攻	博士前期課程	入学定員	15人	収容定員	30人
			→入学定員	25人（+10）	収容定員	50人（+20）
工学研究科	機械工学専攻	博士後期課程	入学定員	3人	収容定員	9人
			→入学定員	5人（+2）	収容定員	15人（+6）
工学研究科	生体医工学専攻	博士前期課程	入学定員	15人	収容定員	30人
			→入学定員	20人（+5）	収容定員	40人（+10）
工学研究科	生体医工学専攻	博士後期課程	入学定員	3人	収容定員	9人
			→入学定員	4人（+1）	収容定員	12人（+3）

◆ 大阪工業大学

○ 夜間主コースの廃止（2014年3月 届出）

工学部	都市デザイン工学科	夜間主コース
	建築学科	夜間主コース
	電気電子システム工学科	夜間主コース
	機械工学科	夜間主コース
	応用化学科	夜間主コース
	電子情報通信工学科	夜間主コース
	経営工学科	夜間主コース

◆ 摂南大学大学院

○ 研究科の設置（2013年4月 届出）

経済経営学研究科	経済学専攻	修士課程	入学定員	5人	収容定員	10人
経済経営学研究科	経営学専攻	修士課程	入学定員	5人	収容定員	10人

○ 専攻の設置（生産開発工学専攻は2013年4月 届出、生命科学専攻は2013年5月 設置認可申請）

工学研究科	生産開発工学専攻	博士前期課程	入学定員	12人	収容定員	24人
工学研究科	生命科学専攻	修士課程	入学定員	10人	収容定員	20人

○ 学生募集停止（2013年7月 報告）

工学研究科	機械・システム工学専攻	博士前期課程	（廃止）	入学定員	△8人	収容定員	△16人
工学研究科	電気電子工学専攻	博士前期課程	（廃止）	入学定員	△8人	収容定員	△16人
経営情報学研究科	経営情報学専攻	博士前期課程	（廃止）	入学定員	△20人	収容定員	△40人

※2014年4月からの学生募集を停止し、在学生の修了等を待って廃止予定。

○ 収容定員の変更（2013年4月 届出）

工学研究科	社会開発工学専攻	博士前期課程	入学定員	8人	収容定員	16人
			→入学定員	12人（+4）	収容定員	24人（+8）

○ 名称変更（2014年1月 届出）

工学研究科	→ 理工学研究科
-------	----------

○ 専攻の廃止（2014年3月 届出）

薬学研究科	薬学専攻	博士前期課程、博士後期課程
-------	------	---------------

◆ 広島国際大学

○ 学部の設置（2013年5月 設置認可申請）

医療栄養学部	医療栄養学科	入学定員	60人	収容定員	240人
--------	--------	------	-----	------	------

○ 収容定員の変更（2013年5月 医療栄養学部設置認可申請において届出）

薬学部	薬学科	入学定員	160人	収容定員	960人
		→入学定員	120人（△40）	収容定員	720人（△240）

○ 学部の廃止（2014年3月 届出）

社会環境科学部 建築創造学科
住環境デザイン学科
情報通信学科

◆ 常翔学園中学校

○ 収容定員の変更（2013年6月 学則変更認可申請）

中学校	収容定員	300人
	→収容定員	360人（+60）

（4）未完成（年次進行中）の学部等

大学名称	申請学部等	申請区分	開設年度
摂南大学	看護学部 看護学科	認可	2012
	大学院 薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)	届出	2012
広島国際大学	医療経営学部 医療経営学科	届出	2011
	保健医療学部 総合リハビリテーション学科	届出	2011
	心理科学部 コミュニケーション心理学科	届出	2011
	大学院 薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程)	認可	2012
	大学院 看護学研究科 看護学専攻(博士後期課程)	届出	2012
	保健医療学部 医療技術学科	届出	2013
	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科	届出	2013
	総合リハビリテーション学部 リハビリテーション支援学科	届出	2013

4. 各部門の重点事業 実績報告

(1) 各部門の重点事業

2013年2月15日(金)経営会議承認

1) 大阪工業大学

▶うめきた・グランフロント大阪「ナレッジキャピタル」における事業展開〔学長室企画課、会計課〕

2) 摂南大学

▶学部・学科の新設・改編・整備事業〔学長室企画課〕

3) 常翔啓光学園中学校・高等学校

▶教育施設整備事業〔事務室〕

(2) 各部門の重点事業 実績報告

1) 大阪工業大学

▶うめきた・グランフロント大阪「ナレッジキャピタル」における事業展開〔学長室企画課、会計課〕

実績報告

2013年4月グランフロント大阪ナレッジキャピタルに新たな教育拠点として「大阪工業大学うめきたナレッジセンター」を開設した。セミナー室(2室)、図書室、応接室、談話スペースを設け、2013年5月から知的財産専門職大学院の授業を開始した。また、大学の教育、研究成果を広く社会に発信するためのセミナーや特別講演会、公開講座を開催した。この他、ベンダーに偏らないIT関連資格・認定を行っている世界的な団体「CompTIA」とパートナーシップを締結し、CBT(Computer-based Testing)テストセンターの開設と資格対策講座を行っている。グランフロント大阪に入居する他機関との連携や各種施設を活用したイベント等も実施しており、産官学連携の交流強化を図っている(詳細は、「5. 各部門の事業報告」を参照)。

2) 摂南大学

▶学部・学科の新設・改編・整備事業〔学長室企画課〕

実績報告

2013年度の学部・学科の新設・改編・整備事業については、文系学部のコース再編について検討を行った。経済学部は、これまでの「地域」「観光」という2つの専攻領域に加えて、その中で取り扱ってきた国際経済の科目を独立させ、2014年度から「国際経済」「地域経済」「観光経済」という3コース制を導入する。法学部と外国語学部については、2015年度のコース再編に向けて準備を進めている。

3) 常翔啓光学園中学校・高等学校

▶教育施設整備事業〔事務室〕

実績報告

6月から11月にかけてグラウンド東側および北側の防球ネット等改修工事を実施した。東側防球ネットの高さを15mから25m、北側防球ネットの高さを8mから15mにし、野球ボール等が敷地外の民家に入ることを防いだ。また、11月に他人地の地下を通っていた雨水配管を敷地内にて迂回するよう工事を完了させ、隣接施設の不安を取り除いた。さらに10月には、北門横傾斜地の樹木に対して倒木防止工事と樹木の剪定を実施し、隣接民家への倒木、落ち葉等の不安を取り除くことができた。

5. 各部門の事業報告

◆ 大阪工業大学

- 2013年 4月 グランフロント大阪ナレッジキャピタルに、知的財産専門職大学院の教育研究施設、各種セミナーや公開講座等による大学の教育・研究成果の発信、産官学連携の場として、新たな教育研究拠点「うめきたナレッジセンター」を開設。＜研究支援推進センター＞
- 2013年 4月～2014年 1月
大学院生および大学院進学予定の学部生を対象として神田外語大学との連携による英語課外講座(前期合計16コマ、後期計14コマ開講)を大宮・枚方の両キャンパスで実施。＜教務課＞
- 2013年 4月～2014年 3月
人間力アップを目指し課外活動への参加を奨励し、加入率が前年度の43%から46%へとアップ。また、強化団体を中心に支援を増強した結果、ウィンドアンサンブルが大阪府大会銀賞を受賞、空手道部が1部に昇格。＜学生課＞
- 2013年 4月～2014年 3月
2013年4月から常勤カウンセラーを採用し、学生相談室の開室時間が1週当たり51時間から63時間へ増。カウンセリングにとどまらず教職員に対する学生対応のコンサルテーションを実施するなど大学全体のサポート体制を強化。＜学生課＞
- 2013年 5月 工学部と情報科学部の合同チームが「ロボカップジャパンオープン2013東京」のロボットの生活支援技術を競う「@ホームリーグ」に出場し、2年連続準優勝を経て、優勝。＜工学部・情報科学部＞
- 2013年 5月～12月
JICA(国際協力機構)から知的財産にかかる外国人研修員を受け入れ。＜知的財産研究科＞
- 2013年 5月～2014年 2月
海外5大学と交流協定締結:マレーシア工科大、サラマンカ大(スペイン)、ウィーン工科大(オーストリア)、国立台湾科技大、タンペレ工科大(フィンランド)。＜国際交流センター＞
- 2013年 6月 大宮本館閲覧室を学生コンペの応募作品によりリニューアル。それを記念し、ライブラリーカフェを実施し、ライブラリーサポーター、学生プロジェクト、留学経験者の発表、英語多読教育の紹介等を実施。＜図書館＞
- 2013年 6月～ 8月
海外ラボ体験プログラム(短期の学生交換)を新規実施。国立台北科技大からの交換留学生9人を6月から1ヵ月半の間、工学部ロボット工学科の研究室で受入。本学からは8月の2週間、ロボット工学科の3・4年次生10人を国立台北科技大に派遣し、現地学生と研究活動を実施。＜国際交流センター＞
- 2013年 7月 FDフォーラム「自己理解を深める体験学習型研修プログラム-新入生導入教育に対する効果検証-」(講師:情報科学部情報メディア学科 佐野睦夫教授)を開催。＜教務課＞
- 2013年 7月 保護者対象就職支援セミナー「教育懇談会～家族ができる就職支援～」を開催。＜企画課＞
- 2013年 7月 うめきたナレッジセンターオープンセミナーをCompTIA日本支局と共催。＜情報センター＞
- 2013年 7月～11月
枚方キャンパスにおいて「Oh! IT グローバルフォーラム」を2回開催。グローバルに活躍する学外講師を招き、学内外から各回約100人が参加。＜情報科学部＞
- 2013年 8月 国際PBLプログラム(新規)を実施。国立台北科技大に工学部電気電子システム工学科・電子情報通信工学科2・3年次生15人を派遣。現地学生と混成チームを作り「複雑な地形のコースを全自動・低振動で走行できる模型自動車」をテーマに共通課題に取り組んだ(使用言語は英語)。＜国際交流センター＞
- 2013年 8月 三重県鈴鹿サーキットで開催された「ソーラーカーレース鈴鹿2013」のオリンピッククラスで、本学モノラボで活動するソーラーカープロジェクト「TEAM REGALIA」が準優勝。＜工学部＞
- 2013年 8月 「第13回レスキューロボットコンテスト」に、本学モノラボで活動するロボットプロジェクトチーム「大工大TECFER」が出場し、「ベストテレオペレーション賞」と「消防庁長官賞」を受賞。＜工学部＞
- 2013年 8月 経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)に工学部機械工学科から提案した研究開発計画の2件が採択。＜研究支援推進センター＞
- 2013年 8月～ 9月
知的財産夏期集中講義を開講。海外からの短期留学生(32人)、特許事務所関係者(6人)の科目等履修生を受け入れ、英語を使用した講座を開講。＜知的財産研究科＞
- 2013年 8月～ 9月
学部3年次生、大学院1年次生のインターンシップを実施。189企業・団体に過去最高となる265人の学生が参加。＜就職課＞
- 2013年 8月～11月
工学部建築学科・空間デザイン学科の学生プロジェクト「奈良県川上村第4期源流分校リノベーション事業」完成。＜工学部・地域連携センター＞
- 2013年 8月～2014年 3月
語学研修・文化体験プログラム等に計88人を派遣。内訳は、語学研修(オーストラリア・クイーンズランド工科大)12人、文化体験(韓国・大田大)2人、同(タイ・泰日工大)3人、同(アメリカ・シアトル)6人、同(カンボジア)2人、同(中国・同済大)2人、各学部・学科実施プログラム55人(2014年3月知財台湾短期集中プログラムは別途記載)。＜国際交流センター＞
- 2013年 8月～2014年 3月
大宮キャンパスに合宿所を新築。＜会計課＞

- 2013年 8月～2014年 3月
情報科学部「デジタル教材開発プロジェクト」の活動として、グランフロント大阪ナレッジキャピタル内カフェ・ラボにおいて「うめきた さんすう教室」を3回実施。計130組の小学生親子が参加。＜情報科学部＞
- 2013年 9月
うめきたナレッジセンターにおいて「Cloud Essentials 研修会」を開催。＜情報センター＞
- 2013年 9月
「第Ⅱ期中期目標・計画」についての意識共有を図るため、教職員が一同に会するキャンパスミーティングを実施。＜OIT改革推進グループ＞
- 2013年 9月
旭区および千林商店街振興組合の後援を得て、工学部建築学科による地域住民サービス「専門家による住まいの相談会」を実施。＜工学部・地域連携センター＞
- 2013年 9月～2014年 1月
情報科学部情報メディア学科の学生が奈良県川上村と連携事業(同村PRWebコンテンツ制作事業)を実施。5作品が優秀賞として選定され村長から表彰。＜情報科学部・地域連携センター＞
- 2013年 9月～2014年 3月
海外研究支援プログラム(新規)を実施。本学大学院に内部進学が確定した4年次生と大学院生を選抜し、17人をアメリカ・カナダ・スペイン・ドイツ・イタリア・中国・韓国などの大学・機関に1ヵ月以上派遣。＜国際交流センター＞
- 2013年11月
国内外からのゲストスピーカー(海外はサラマンカ大[スペイン]、ミュンヘン工科大[ドイツ]、ヴッパータール大[ドイツ]、カーネギーメロン大[アメリカ]、エンブリー・リドル航空大[アメリカ]から計6人)を招き、ロボティクスに関する国際ワークショップを開催。後日サラマンカ大学のコルチャード教授の特別講義を実施。＜国際交流センター＞
- 2013年11月
北山祭で実施しているOITカーニバルにおいて、学生が企業の採用担当者に対して研究内容等を発表(参加企業数8社)。＜就職課＞
- 2013年11月
課外活動団体「ボランティア・Link」が中心となり、大宮・枚方キャンパスの学生が、奈良県十津川村で復興支援ボランティアを実施。＜学生課＞
- 2013年11月～2014年 3月
枚方キャンパスの野球場を全面改修し、「OITスタジアム」と改称。＜会計課＞
- 2013年12月
大阪府立工科高校(高大連携重点型校)3校との連携協定を締結。＜教務課・入試課＞
- 2013年12月
インテックス大阪(大阪市住之江区)で開催された「第8回大阪モーターショー」に、学生のプロジェク活動の取り組みとして製作したソーラーカーとソーラーコンバートEVを出展。＜企画課＞
- 2013年12月
大阪府サイエンススクールネットワーク連絡協議会と連携に関する覚書を締結。＜入試課＞
- 2014年 1月
ピアソンVUEと公認テストセンター契約を締結(CBTテストセンター稼動準備が整う)。＜情報センター＞
- 2014年 1月～ 3月
大宮キャンパス東学舎1号館の全部室および第2部室センターへ空調設備を新規に設置。＜会計課＞
- 2014年 3月
学生の主体的学びを支援するための施設として「ラーニングコモンズ」を大宮・枚方両キャンパスに設置。＜教務課＞
- 2014年 3月
小規模普通教室に電子黒板(BIGPAD)を導入(大宮9教室、枚方4教室)。＜教務課＞
- 2014年 3月
台湾短期集中プログラムにて大学院生6名を派遣。協定3大学での研修、台湾知財局や知財裁判所などを見学。＜知的財産研究科＞

◆ 摂南大学

- 2013年 4月
「交野市チャリティーマラソン」に大学ブースを出展。＜企画課・薬学部＞
- 2013年 5月
和歌山県すさみ町「イノブータン王国建国28周年祭」の運営を支援。＜地域連携センター＞
- 2013年 5月
教養特別講義「摂南大学とこの地域を学ぶ-北河内学-」を開講。＜地域連携センター＞
- 2013年 5月
摂南大学公式Facebookページを開設。＜企画課＞
- 2013年 5月
陸上競技部が1部に昇格。＜学生課＞
- 2013年 5月
「第43回神戸まつり」に大学ブースを出展。＜企画課・薬学部＞
- 2013年 5月
摂南大学公式ホームページをリニューアル。＜企画課＞
- 2013年 6月
小学生への実践型防災教育を実施。＜地域連携センター＞
- 2013年 7月
「第2回摂南大学最先端研究フォーラム」を開催。＜企画課・研究支援センター＞
- 2013年 7月
教養特別講義「地域連携教育活動」において小学校の臨海学校をサポート。＜地域連携センター＞
- 2013年 8月
「リアル・マドリッド・ファンデーション チャレンジキャンプ2013」に、寝屋川キャンパス人工芝グラウンドを提供。＜企画課・学生課＞
- 2013年 8月
夏の薬草見学会を開催。＜薬学部・地域連携センター＞
- 2013年 8月
「大阪中学生会サマー・セミナー」に7学部が講座を開講。＜各学部・地域連携センター＞
- 2013年 8月
門真市砂子校区の夏祭りの運営に参画。＜地域連携センター＞
- 2013年 8月
親子で学ぶ夏休みパソコン教室を開催。＜情報メディアセンター・地域連携センター＞
- 2013年 8月
和歌山県すさみ町に220年以上続くお盆の伝統行事「佐本川柱松」の継承に協力。＜地域連携センター＞
- 2013年 8月
交野市教育委員会との協働事業として「夏の中学生理科セミナー」を開催。＜理工学部・地域連携センター＞
- 2013年 8月
寝屋川市内小学校で一斉打ち水「クールシティー寝屋川」に協力。＜地域連携センター＞
- 2013年 8月
「2013年度第1回Smart and Human学生指導法研修」を開催。＜教務課＞
- 2013年 9月
摂南Familyが交流を深め合うホームカミングディ「All 摂南大学 2 Days」を開催。＜企画課＞
- 2013年 9月
「2013年度教職員研修ワークショップ」を開催。＜教務課＞
- 2013年 9月
「第19回全学FDフォーラム」を開催。＜教務課＞
- 2013年 9月
薬学部開設30周年記念行事を開催。＜薬学部＞
- 2013年10月
秋の薬草見学会を開催。＜薬学部・地域連携センター＞
- 2013年10月
産学公民地域連携フォーラム「防災に役立ちそうな、あんな工夫・こんな技術」を開催。＜理工学部・地域連携センター＞

- 2013年10月 スマート出願(インターネット出願)の導入を開始。＜入試部＞
- 2013年10月 第9回英語教育フォーラム「英語が使える日本人の育成」を開催。＜外国語学部＞
- 2013年10月 寝屋川キャンパスで「健康フェア」、枚方キャンパスで「食育フェア」を開催。＜学生課(保健室)＞
- 2013年11月 大阪府立交野高等学校と高大連携に関する協定を締結。＜入試部＞
- 2013年11月 スマートフォン用の帰宅支援アプリ「摂南大学避難マップ」の提供を開始。＜理工学部＞
- 2013年11月 大阪府の「歩道橋トライ(トライアングル・リニューアル)事業」に協力。＜経済学部・地域連携センター＞
- 2013年11月 「看護学部開設1周年記念シンポジウム」を開催。＜看護学部＞
- 2013年11月 第4回住環境デザインフォーラム「光と色の環境デザイン」を開催。＜理工学部＞
- 2013年12月 防災教育プログラム「自分たちのまちを知ろう！寝屋川市池田中町地区対象防災DIG(災害図上訓練)」を開催。
＜理工学部＞
- 2013年12月 大阪市立住まい情報センターと共催で外国語学部国際教養セミナー「もてなしの文化ー食卓から見る世界史ー」を開催。＜外国語学部＞
- 2013年12月 北大阪商工会議所と連携協力に関する包括協定を締結。＜地域連携センター＞
- 2013年12月 ラグビー部がAリーグに昇格。＜学生課＞
- 2013年12月 常翔学園3大学課外活動団体交流戦を開催。＜学生課＞
- 2013年12月 経営学部生が日本インターンシップ推進協会主催「平成25年度インターンシップ成果発表会」で奨励賞を受賞。
＜経営学部＞
- 2014年 1月 吹奏楽部が「第40回大阪府アンサンブルコンテスト」で金賞を受賞。＜学生課＞
- 2014年 1月 「学生防犯ボランティア地域交流会」を開催。＜法学部＞
- 2014年 2月 「寝屋川ラグビーフェスティバル」を開催。＜学生課＞
- 2014年 2月 大阪くらしの今昔館との共催により「浪花の大ひな祭り」を開催。＜外国語学部＞
- 2014年 2月 近隣の小学生を寝屋川キャンパスに招き「摂南大1日体験入学」を実施。＜理工学部・地域連携センター＞
- 2014年 2月 摂南大学学術機関リポジトリを設置。＜企画課・図書館＞
- 2014年 2月 外国語学部生が青年海外協力隊に合格(累計32人に)。＜外国語学部＞
- 2014年 3月 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」平成25年度合同フォーラムで摂南大学のPBL活動が最優秀のグランプリを受賞。＜地域連携センター＞

◆ 広島国際大学

- 2013年 4月 GPA制度、履修科目の上限単位数設定(キャップ制)の導入。＜教務部、医療経営学部事務室＞
- 2013年 4月 専門職連携教育(IPE)導入教育『「救命の連鎖」への仲間入り』講演会の開催。＜総合教育センター＞
- 2013年 4月～2014年 3月
「就業力育成プログラム」を実施。＜キャリアセンター＞
- 2013年 5月～2014年 2月
公開講座「咲楽塾」(前期・後期)を実施。＜地域連携センター、保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、心理科学部、工学部、看護学部、薬学部＞
- 2013年 5月、7月、10月、11月
健康フェア(広島会場・福岡会場・大学祭)を開催。＜地域連携センター、保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、医療経営学部、心理科学部、工学部、看護学部、薬学部＞
- 2013年 6月 東広島・呉・広島キャンパスロビーにて広島国際大学教員自著図書の展示を開始。＜図書館事務室＞
- 2013年 7月 総合教育センター学力推進部門活動報告会を開催。＜総合教育センター＞
- 2013年 7月 専門職連携教育(IPE)Step1コンテストを開催。＜総合教育センター＞
- 2013年 7月 幟町ギャラリー開設特別展示「炎える曼珠沙華」を開催。＜医療経営学部事務室＞
- 2013年 7月～11月
広島県補助事業「広島県医療介護経営人材育成支援事業(7月:基礎研修、10・11月:専門研修)」を実施。
＜医療経営学科、地域連携センター＞
- 2013年 7～8月、10月
子ども向け(職業・科学・ものづくり)体験講座を実施。＜地域連携センター、保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、医療系経営学部、心理科学部、工学部、看護学部、薬学部＞
- 2013年 7月、2014年3月
教職員向け障がい学生支援講演会を実施。＜障がい学生支援室＞
- 2013年 8月 専門職連携教育(IPE)Step3を試行実施。(東広島・呉キャンパス)＜総合教育センター＞
- 2013年 8月 イノベーション・ジャパン大学見本市へ出展。＜研究支援センター、医療技術学科、情報通信学科＞
- 2013年 8月 島根県飯南町と森林セラピー推進事業における連携協力協定を締結。＜地域連携センター＞
- 2013年 8月～2014年3月
海外留学支援事業(薬学研究科・心理科学部・工学部)を実施。＜国際交流センター＞
- 2013年 9月 専門職連携教育(IPE)Step4を試行実施。＜総合教育センター＞
- 2013年 9月 敷地内全面禁煙の実施＜学生部、医療経営学部事務室＞
- 2013年 9月 中国新聞社主催「健康サポートフェア」へブースを出展。
＜地域連携センター、診療放射線学科、リハビリテーション支援学科、薬学科＞
- 2013年 9月～2014年 2月
内閣府「子ども・若者支援地域ネットワーク形成のための研修会事業」を実施(全5回)。
＜地域連携センター、医療技術学科、医療福祉学科、臨床心理学科＞
- 2013年 9月～2014年 3月

- 「卒業生サポーター制度」を導入。＜キャリアセンター＞
- 2013年10月 「HIUキャリアフェア2013」を開催。＜キャリアセンター＞
- 2013年11月 広島県あいサポート運動連携企画「バリアフリー映画祭」を開催。
＜地域連携センター、リハビリテーション支援学科、感性デザイン学科＞
- 2013年11月 広島県主催「介護の日フェスタ」へ医療福祉機器のブースを出展。
＜地域連携センター、リハビリテーション支援学科＞
- 2013年11月 「広島国際大学 第1回ここからの手紙コンテスト」を実施。＜企画課＞
- 2013年11月 IPE Campを実施。＜総合教育センター＞
- 2013年11月 広島信用金庫ビジネスマッチングフェア2013、東広島市産学金官マッチングイベントへ出展。
＜研究支援センター、リハビリテーション支援学科＞
- 2013年11月～2014年 1月
広島国際大学図書館「朝活はじめよう！」を開催。＜図書館事務室＞
- 2013年11月～2014年 3月
「保護者ネットワーク制度」を導入。＜キャリアセンター＞
- 2013年12月 広島県主催「ヒューマンフェスタ2013ひろしま」へ看護・医療・福祉に係るブースを出展。
＜地域連携センター、リハビリテーション支援学科、医療福祉学科、看護学科＞
- 2013年12月 「広島国際大学 健康サラダレシビコンテスト」を実施。＜呉庶務課＞
- 2014年 1月 広島信用金庫と「産学金連携協定」を締結。＜研究支援センター＞
- 2014年 1月 「医療栄養学部」開設に係る呉キャンパス1号館4階等の改造工事完了。＜営繕課＞
- 2014年 3月 熊野町と保健福祉施策における連携協力協定を締結。＜地域連携センター＞
- 2014年 3月 東広島キャンパス2号館5階多目的室をラーニング・コモンズとして整備。＜総合教育センター＞
- 2014年 3月 情報処理関係設備を更新。＜情報センター＞

◆ 常翔学園中学校・高等学校

- 2013年 5月 〔中学・高校〕部活動生徒集会でアテネ五輪銀メダリスト蟹江美貴氏の講演を実施。
- 2013年 5月 〔中学・高校〕京セラドーム大阪で体育祭を実施。
- 2013年 7月 〔中学〕初の修学旅行を実施。
- 2013年 7月 〔中学〕イングリッシュキャンプを実施。
- 2013年 7月 〔高校〕オーストラリア語学研修を実施。
- 2013年 7月 〔高校〕英国インターナショナルプログラムを常翔啓光学園高校と合同で実施。
- 2013年 7月 〔高校〕ラグビー部がニュージーランド遠征を実施。
- 2013年 8月 〔高校〕アーチェリー部が国体で少年の部個人優勝、団体3位を獲得。
- 2013年 9月 〔中学・高校〕文化祭を実施。
- 2013年 9月 〔高校〕OsakaCityProject発表会を実施。
- 2013年12月 〔中学・高校〕GTECを中学生・高校生が全員受験(中学1年生と高校3年生の一部を除く)。
- 2013年12月 〔中学・高校〕台風18号(9月)により被害を受けた河川敷グラウンドが復旧。
- 2014年 1月 〔高校〕オーストラリアのカシミア・カトリック・カレッジ校の生徒が来校し、本校生徒と交流。
- 2014年 1月 〔高校〕1年生が守口市民会館さつきホールで企業探究学習発表会を実施。
- 2014年 1月 〔中学〕百人一首大会を実施。
- 2014年 1月 〔高校〕薬医コース2年生がガリレオプラン発表会を実施。
- 2014年 2月 〔中学〕スキー実習を実施。
- 2014年 2月 〔中学・高校〕マラソン大会を実施。
- 2014年 2月 〔中学〕「クエストカップ2014全国大会」(主催:教育と探究社)で個人・団体とも準グランプリを受賞。
- 2014年 3月 〔高校〕初の京都大学現役合格者を輩出。
- 2014年 3月 〔中学〕初の卒業式を実施。

◆ 常翔啓光学園中学校・高等学校

- 2013年 5月 〔中学〕K¹クエスト(摂南大学〔薬学部・理工学部〕訪問)を実施。
- 2013年 7月 〔高校〕ラグビー部ニュージーランド研修旅行を実施。
- 2013年 7月 〔中学・高校〕イギリス語学短期留学を実施。
- 2013年 7月 〔高校〕夢ナビライブに参加。
- 2013年 8月 〔高校〕SPP採択事業を実施。
- 2014年 1月 〔高校〕オーストラリア語学長期留学を実施。
- 2014年 2月 〔中学〕「クエストカップ2014全国大会」(主催:教育と探究社)でグランプリを受賞。
- 2014年 3月 〔中学・高校〕五輪メダリスト(銀・銅)有森裕子氏講演会を実施。

◆ 法人本部

◇ 内部監査室

随時 公益通報窓口業務

2013年 5月～ 7月

広告費の執行状況監査を実施[対象:本部、大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校]。

2013年 6月～ 7月

科学研究費補助金等の執行状況監査を実施[対象:大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学]。

2013年 9月～11月

学部事務室業務監査を実施[対象:4部署(大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学)]。

2013年12月～2014年 2月

備品費の執行および備品の使用状況監査を実施[対象:本部、大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校]。

◇ 法人室

2013年10月 大阪工業大学、摂南大学および広島国際大学学長の改選。

2014年 2月 常翔学園中学校・高等学校および常翔啓光学園中学校・高等学校校長の改選。

◇ 経営企画室

2014年 2月～ 3月

学園設置3大学を対象に「学生アンケート調査」を実施。

2014年 3月 「J-Vision 2022」等にかかるアンケート調査を実施。

◇ 危機管理室

2013年 4月 自校教育の一環として設置学校の学生生徒に対して「読本」を製作し配付。

(大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校)
＜渉外課＞

2013年 4月 災害時行動マニュアルの作成、配布。＜危機管理課＞

2013年 4月 消防計画書(防火・防災)の作成、届出。＜危機管理課＞

2013年 4月 緊急地震速報システムを利用した避難訓練の実施。＜危機管理課＞

2013年 4月～2014年 1月

学園各校地・キャンパスの防火・防災訓練、反省会の実施。＜危機管理課＞

2013年 5月 平成25年淀川水防・大阪府地域防災総合演習へ参加。＜危機管理課＞

2013年 5月 第1回一斉連絡・安否確認システム運用訓練の実施。＜危機管理課＞

2013年 6月 第1回防災セミナーの実施。＜危機管理課＞

2013年 8月 第2回防災セミナーの実施。＜危機管理課＞

2013年 8月 着衣水泳、心肺蘇生、AED講習会の実施。＜危機管理課＞

2013年 8月 危機管理研修会の実施。＜危機管理課＞

2013年 8月 第1回自主点検の実施。＜危機管理課＞

2013年 9月 応急手当講習会の実施。＜危機管理課＞

2013年 9月 第1回備蓄品(機材を含む)点検の実施。＜危機管理課＞

2013年11月 第3回防災セミナーの実施。＜危機管理課＞

2013年11月 第2回一斉連絡・安否確認システムの運用訓練の実施。＜危機管理課＞

2013年12月 第4回防災セミナーの実施。＜危機管理課＞

2014年 1月 中宮・大宮地域防災会議の開催。＜危機管理課＞

2014年 2月 第2回備蓄品(機材を含む)点検の実施。＜危機管理課＞

2014年 2月 防火・防災管理者会議の開催。＜危機管理課＞

2014年 3月 第2回自主点検の実施。＜危機管理課＞

◇ 広報室

2013年 5月 神戸まつりブースに協賛(大阪工業大学・摂南大学)。

2013年 5月 学園広報誌FLOW54号発行。

2013年 7月 常翔学園中学校・高校学校案内発行。

2013年 7月 常翔啓光学園中学校・高校学校案内発行。

2013年 8月 学園広報誌FLOW55号(卒業生号)発行。

2013年 9月 梅田キャンパス設置記者会見を実施。

2013年10月 学内者対象の「広報セミナー」を主催。

2013年11月 大阪工業大学と報道関係者との懇談会を主催。

2013年11月 学園広報誌FLOW56号発行。

2013年11月 広島国際大学と報道関係者との懇談会を主催。

2013年12月 摂南大学と報道関係者との懇談会を主催。

2014年 1月 学園広報誌FLOW57号発行。

2014年 3月 学園案内発行。

2014年 3月 学園広報誌FLOW58号(卒業生号)発行。

2014年 3月 第4回淀川国際ハーフマラソンに協賛。

【プレスリリースの配信件数】

大阪工業大学 58本、摂南大学 30本、学園(梅田キャンパス) 2本(参考:広島国際大学 40本)

◇ システム室

- 2013年 7月 広島地区認証システム(ログインID/パスワード管理)と事務用メールの法人同システムへの統合。
2014年 3月 学生生徒支援システム(摂南大学・広島国際大学)の更新。
2014年 3月 事務システムの機能向上(施設情報システム新設、学園職員給与支給日統一に伴う人事給与システムの改修)。
2014年 3月 常翔啓光学園中学校・高等学校図書館システムと同校認証システムの法人同システムへの統合。
2014年 3月 事務支給パソコンの更新(大阪地区)。
2014年 3月 登下校管理システム(常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校)の更新。

◇ 総務部

- 2013年 4月 業務改革にかかる理事長表彰の実施。＜人事課＞
2013年 4月～2014年 3月
事務職員選抜研修「常翔塾」の開講。＜人事課＞
2013年 7月 コンプライアンスカード改訂版を発行。＜総務課＞
2013年 8月 事務職員業務改革ワークショップ(集合研修会)の実施。＜人事課＞
2013年 8月 海外学生引率にあたり中堅事務職員を選抜し研修派遣。＜人事課＞

◇ 財務部

- 2013年10月 地震時管制運転装置を有しないエレベーター(25基)にエレベーターチェアを設置。＜用度課＞
2013年 4月 混雑緩和のため、学生食堂に券売機2台(大宮1台、広島1台)を増設。＜用度課＞
2014年 3月 常翔歴史館を新築(2014年5月開館予定)。監視カメラシステムおよび警報装置(入館者確認および夜間警戒用)の運用を開始。加えて、緊急地震速報システムを設置。＜用度課・施設課＞

◇ 研究推進連携機構

1. 特許等管理状況 (2014年3月31日現在)

発明関係	総数	内訳	
		単独	共同
2013年度発明届出件数	18	9	9
2013年度日本国内出願件数 (分割出願等を含む)	12	6	6
国内特許権取得件数(累計)	26	9	17
外国出願件数(累計)	22	7	15
実施、利用許諾関係	特許 (出願中を含む)	著作権	商標
実施許諾(オプション含む)(累計)	7	1	1

2. 知的財産、産学連携に関する啓発・支援

①研究者に対する支援

・知的財産セミナーの開催

2013年 6月 大阪工業大学、摂南大学、広島国際大学(初級編)

2013年10月 広島国際大学(中級編)

・研究成果有体物にかかる説明会の開催

2013年 7月 摂南大学

2013年10月 広島国際大学

②研究倫理に係る規定等の制定について

2014年 3月 学校法人常翔学園学術研究倫理憲章の制定

学校法人常翔学園研究者倫理に関するガイドラインの制定

設置大学毎の研究活動に係る不正防止に関する規定の制定

3. 外部組織との連携

①科学技術振興機構を活用した連携促進

・新技術開発あっせんによる技術移転と産学連携

・特許主任調査員による発明内容の評価

・JST科学技術コモンズとの連携

・シーズの提供

②知的財産戦略ネットワーク株式会社を活用した技術(創薬系)移転活動

③学外との連携会議

・近畿経済産業局:産学官連携実務者会議への参加(2013年8月、2014年3月)

・関西私立大学知的財産連絡協議会への参加(2013年7月、9月、10月、12月)

4. シーズ発表

・BIO tech 2013 アカデミックフォーラム(2013年5月)、イノベーション・ジャパン(2013年8月)等

◇ 連携教育推進機構

- 2013年 4月 「連携教育推進機構」を設置。
- 2013年 5月 第1回中高大連携教育推進委員会を開催。
- 2013年 7月 第2回中高大連携教育推進委員会を開催。
- 2013年11月 学園設置学校合同授業見学会を実施。
- 2013年12月 学園設置学校合同研修会を実施。
- 2014年 3月 第3回中高大連携教育推進委員会を開催。